

ダイバーシティ実現バリアフリールート共有アプリ「DiversMap 2」

Divers Project

キーワード

バリアフリーマップ/社会課題/車椅子利用者/点字ブロック/防災マップ

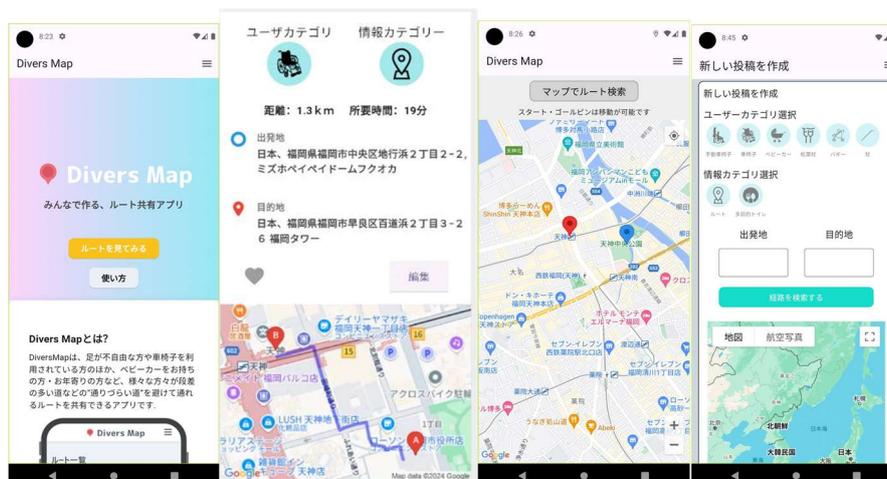
【開発背景】

私は、中学生の頃から車椅子を利用して、非常に困った思いをたくさんしてきました。高校生の時には、横断歩道のちょっとした段差でつまづいて怪我をしたことがあります。本当にちょっとした段差で大きな怪我につながる事があり、私は、自分も含め全ての車椅子利用者が怪我なく安全に道を通れるようにしたいという強い思いから自社のサービスである「DiversMap」を開発しています。

【システムの概要】

「Divers Map 2」は、「Divers Map」をさらに拡張させたアプリです。追加された機能を4点紹介します。

1. ユーザが投稿した安全なルートと点字ブロックの情報から安全なルートを自動で提案する。(画像 3)
2. ルートを投稿する際に投稿するユーザの категорияが選択できる。(画像 4)
3. 通りやすいルート(道)の共有を簡単に行えるエディタを実装しています。(画像 4)
4. カテゴリーアイコンを用いてルート情報を簡単に確認できる分かりやすい画面にしている。(画像 2)



バリアフリーなルートの自動提案などの上記4点の機能を拡張する事によって、アプリ利用者の利便性を向上させるだけではなく、点字ブロックを活用で、車椅子やベビーカー等の利用者でなく誰でも投稿できることからルート投稿者数が増え、今後、3D都市モデルのPLATEAU上にバリアフリーのルート情報を反映させて視覚的に確認できるマップを実現させていきたいです。

【他にない特徴】

本システムでは、車椅子利用者やベビーカー利用者をターゲットとし「この道なら通りやすい!」といった情報を誰でも簡単に投稿・閲覧することが出来るアプリで現在開発中のシステムである車椅子利用者、足が不自由な方、目が不自由な方が使いやすい道を提供できるシステムを開発しています。そのシステムは、それまでどの福祉XITベンチャー企業も積極的に取り組んでいなかった点字ブロックの自動判別とルート反映を積極的に取り入れ、さらに投稿された安全なルートを組み合わせて自動で安全なルートを提案できる仕組みによって、よりスマートに利用者に適したルートを提供できるようにしています。